

上本部学園



学校だより

第48号

ひやく せつ ふ とう

百折不撓

令和5年3月20日



文責:校長 玉城史江

中学3年生、31名学び舎を巣立つ

～ 上本部学園 第3回卒業式 答辞 平安山 良輝～

これからの未来に対して、期待や不安が入り混じる中、こうして無事旅立ちの日を迎えることができました。卒業するにあたり、上本部学園で過ごしてきた日々を振り返るといろいろな出来事を思い出します。

中学一年生の頃は新型コロナウイルス流行のため休校になり、僕達の新生活の始まりが遅れてしまいました。しかし、約一月半後に小中一貫校としての出発式を行い、無事中学部生活をスタートしました。久しぶりにみんなで顔を合わせた時は、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。僕達三期生から制服が新しくなり、ネクタイが追加されました。初めてのネクタイ結びに苦戦しましたが、両親や先生方に結び方を教わったり、体育終わりに友達とネクタイを結び合ったりしたことを覚えています。

二年生になり、賑やかさを増す中、中学部に後輩ができ、僕達も先輩らしくなりました。部活動では、先輩達と共によりいっそう練習に力を入れました。努力のおかげで、上達することができました。そして、二年生一番の思い出といえば、修学旅行です。修学旅行前から、クラスの話は修学旅行のことで持ちきりで、今まで以上に盛り上がっていました。修学旅行は貴重な県外での校外授業で、みんな真剣に取り組み、普段見ることができない町並みや料理、自然などを満喫しました。長崎の地を訪れ、平和について深く考えました。友と学び、楽しい時間を過ごし、より友情を深めることができました。

三年生になり、僕達は最高学年として、仲間と協力しながら、後輩達をリードし、様々なことに挑戦し、大きく成長してきました。運動会でのエイサーや自分たちで振り付けを考えたダンスは、短い練習期間の中、リーダーを中心に取り組んできました。音楽発表会では、休み時間や放課後も使い、毎日練習しました。本番は、グランプリというとてもいい結果を残すことができました。

数々の取り組みを行いながら、自分達の進路のことについても真剣に考え、受験勉強や面接練習に挑戦してきました。それは、自分との戦いでもありました。精神的に辛いときもありましたが、友達と励まし合い、頑張ってきました。

これまでの学校生活を振り返ったとき、気がつくといつも隣には友達がいっぱい。今年の卒業式のテーマである「希」という字には、めったにないという意味が込められています。僕達のクラスは、今までにないくらい一人ひとりの個性がとても強いです。(中略)これまで、このメンバーと過ごしてきた思い出の数々は、この先手に入れることができない、かけがえのない宝物です。

私達がここまで成長できたのは、地域のみなさんや先生方の存在があったからです。朝の交通整理をして下さったり、読み聞かせをして下さったりと僕達のためにありがとうございました。そして、先生方は、いつも僕達を見守って下さいました。問題を自分たちで解決できるように、アドバイスを下さいました。先生の一言で僕達がどれだけ救われたことか…。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、共に過ごしてきた後輩達へ伝えたいことがあります。これまで一緒に上本部学園を盛り上げてくれてありがとう。メッセージ動画も嬉しかったです。これからも、この上本部学園で、希望をもち、個性をいかし、いろいろなことに挑戦し、たくさんの経験を積み、自分を、自分達を成長させて下さい。応援しています。

上本部学園という場所で出会い、共に多くの時間を過ごしてきた仲間達、未熟だった僕達をここまで指導してくれた先生方、僕達を一番近くで支えてくれた家族、本当にこれまでありがとうございました。これまで培ったこと、これまで経験してきたこと、すべてをいかし、これからの人生に役立てていきます。

(「答辞」の内容を一部抜粋してご紹介します。)

第47号にて紹介しました。菊の花の提供をいただいた中根奨さんのおばあちゃんは「西平」さんでした。おわび申し上げるとともに、提供に際し深く感謝申し上げます。

